

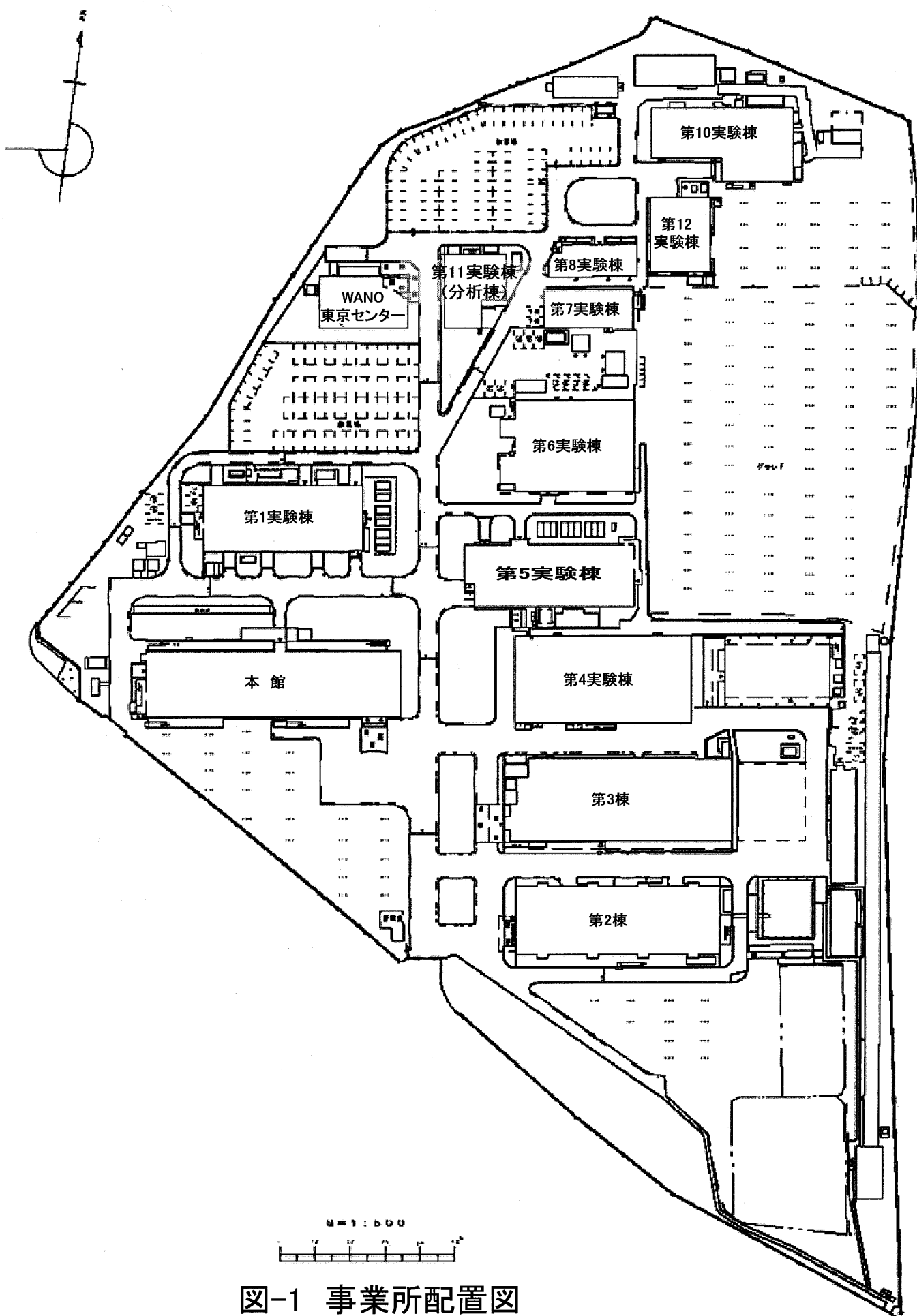


図-1 事業所配置図

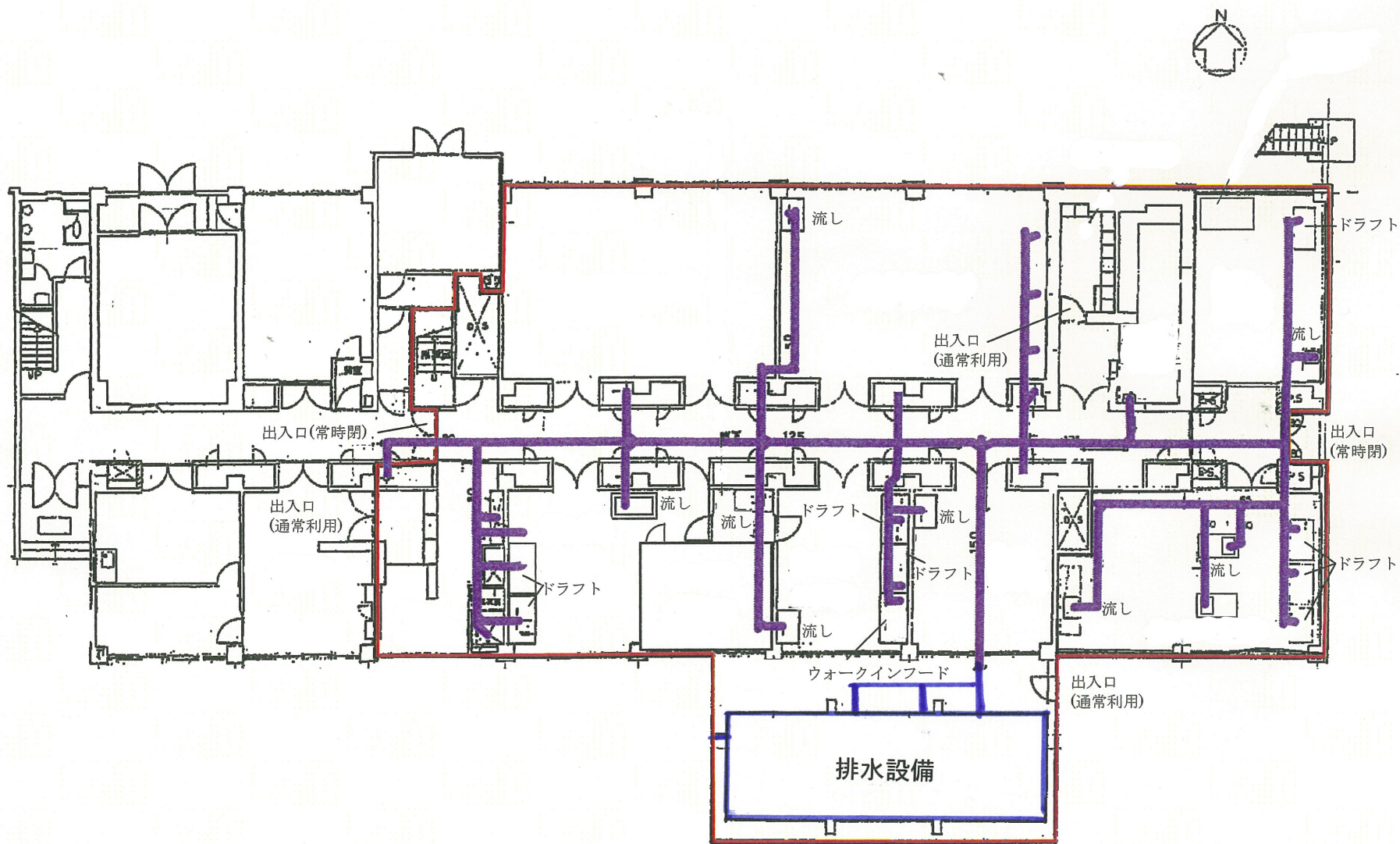


図-2 施設配置図 (1階平面図)

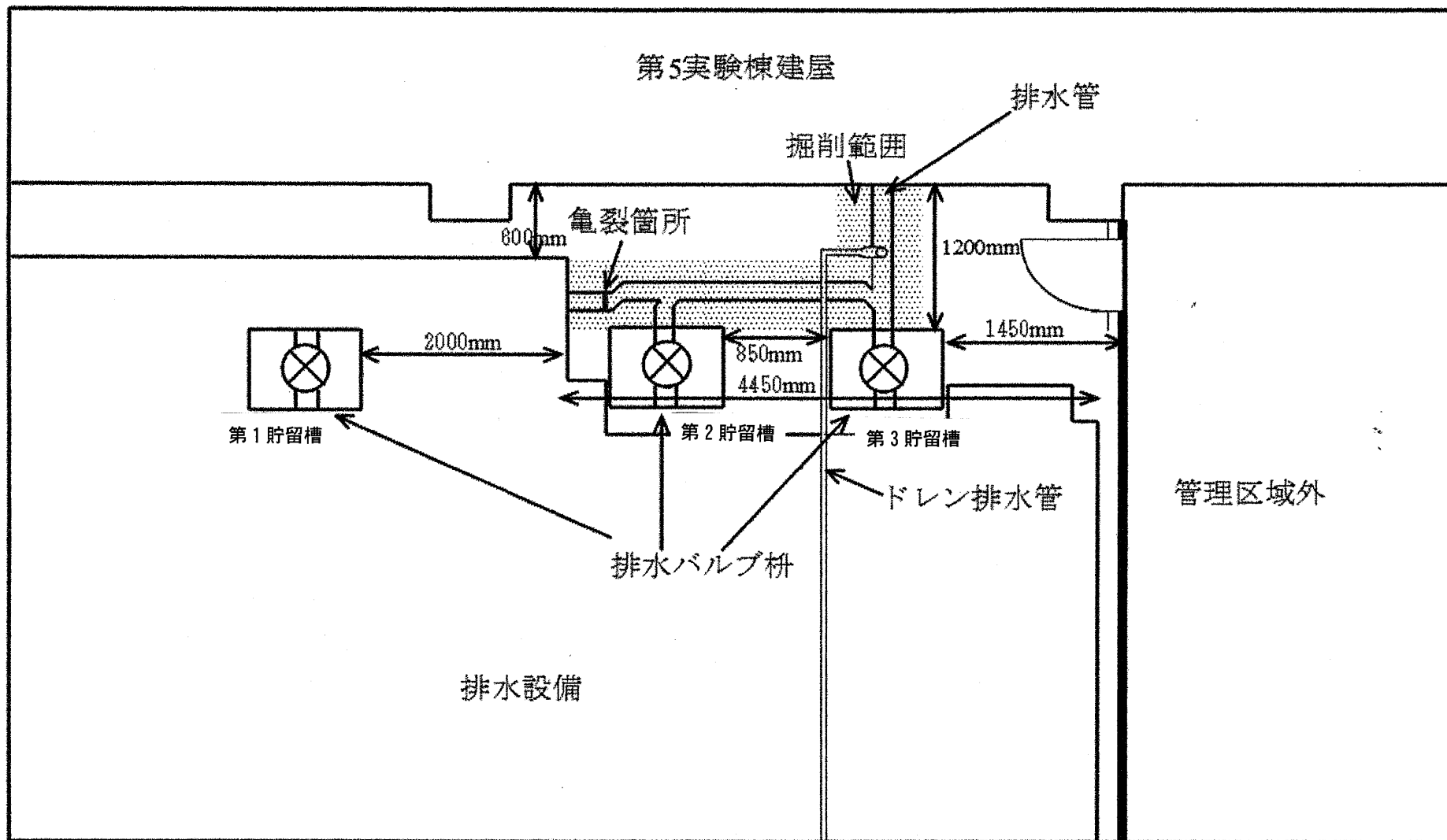


図3 調査対象（掘削範囲）

測定日：H25/2/24
 測定器：TCS-161 (Na I -主としてγ線)
 シリアル：R04333

事前の線量率測定

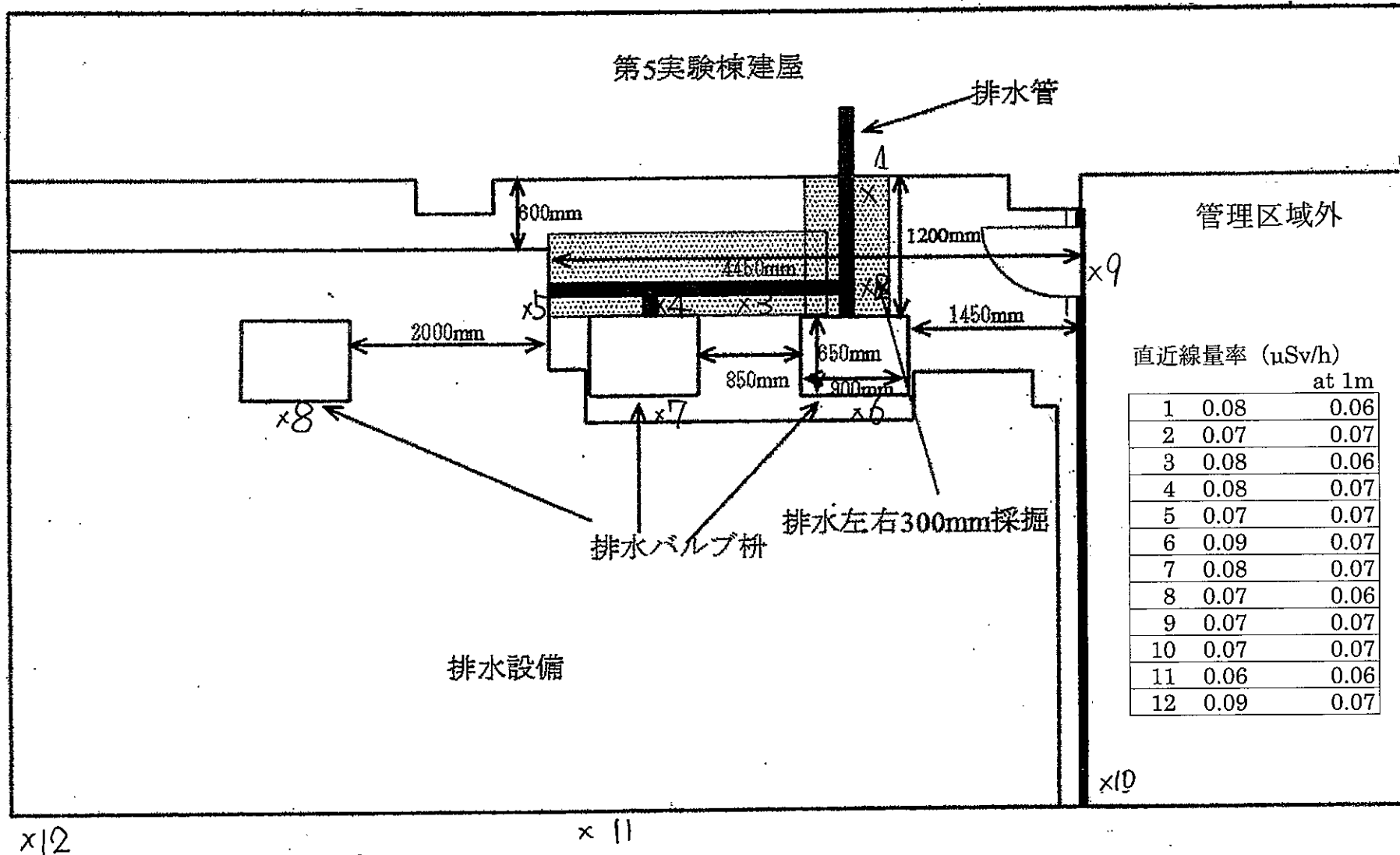
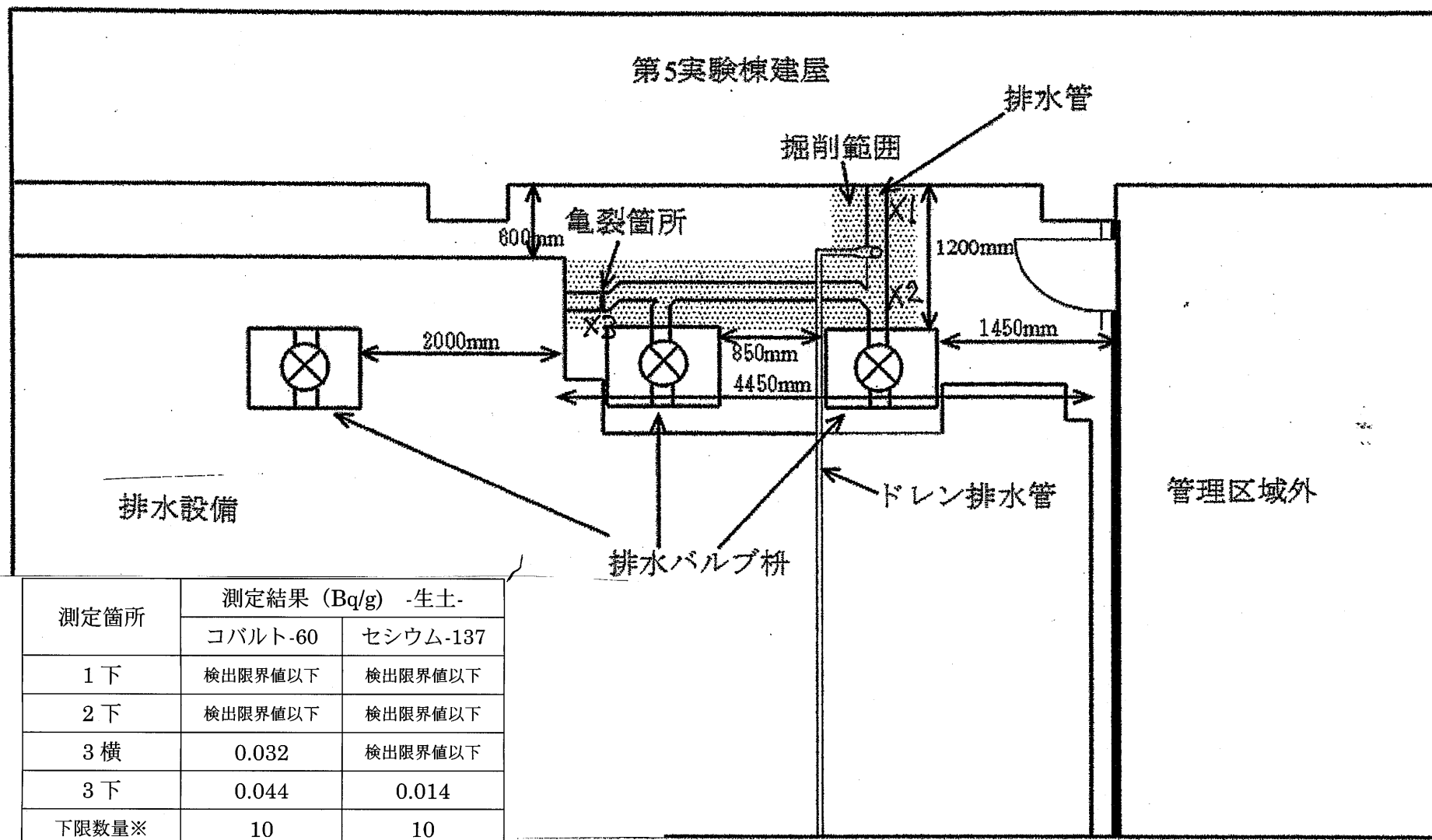


図-4 (1) 測定箇所および測定結果 (1)
 -NaI シンチレーション検出器による実効線量測定結果-



※放射線障害防止法で定めるコバルト 60 の
下限数量 (10Bq/g) に対して、測定箇所
「3 下」で検出した濃度 (0.044 Bq/g) は
約 200 分の 1 のレベルです。

図-4 (2) 測定箇所および測定結果 (2)
-ゲルマニウム半導体検出器による放射エネルギー測定結果-

第5実験棟管理区域排水ライン漏水箇所（現場写真 2/24(日) 14:20 頃撮影）

＜作業状況＞



＜排水管＞※矢印（赤）で示している場所に亀裂



図5 現場写真

表 1 時系列

日付	内容
2/23(土)	第 5 実験棟建屋～貯留槽間の排水ライン調査を行うため、貯留槽入口のバルブを「閉」にして、建物側から注水（水道水）を開始。
	注水しても排水管に水が貯まらないことから、途中で漏水している疑いがあるため、直ちに注水を停止して調査を中断。＜12 時 10 分頃＞
	排水管の目視確認可能な部分（建屋内）について調べ、漏水が無いことを確認。地中埋設部分からの漏水可能性が高いことを確認し、明日（2/24）の朝から地中埋設部の漏水箇所特定作業（原因究明）と漏水近辺等の土壌についての線量率詳細測定（安全確認）を行うことを決定。
2/24(日)	施設周辺の線量率測定を実施し、すべての地点でバックグランドレベルであることを確認。
	地中埋設排水管が目視で確認できるところまで土壌の掘削を実施。 掘削した土壌は位置・深さ毎に区分けして土嚢袋に入れて施設内に仮置き。 また、掘削は NaI シンチヨンサーベイメーターで線量率がバックグランドレベルであることを確認しながら実施。
	地中から 68cm 深さのところで排水管が露出。表面の目視確認を実施したところ、亀裂（1 ヶ所）を発見。＜14 時 05 分＞
	亀裂箇所の横および下部を含む計 4 箇所で採取した土壌について、ゲルマニウム半導体検出器で詳細測定を実施。 コバルト 60、セシウム 137 が確認されたが、いずれも極めて微量で人体や環境に影響を及ぼすレベルでないことを確認。